

早期発見、早期治療で治る大腸がん

消化器外科 平木 将之

日本人で増えている大腸がん

日本において大腸がんは最も罹患者数の多いがんであり、死亡数は男性で2位、女性で1位です(2021年データ)。早い段階で治療すれば根治する可能性が高いため、早期診断、早期治療が非常に重要です。便潜血による大腸がん検査を受けた人は死亡率が60-80%低下し、進行がんが50%減少することがわかっています。しかし近年では、新型コロナウイルス感染症の影響でがん検診の受診率が落ち込んでおり、コロナ禍前後の2019年と2021年の受診者数を比べると、大腸がんでは9%減少していました。受診者数の回復のために、国、自治体、病院が連携して受診率の向上への取り組みを行っています。

便潜血が陽性なら必ず2次検診を

便潜血検査が陽性と出たら、必ず2次検診(精密検査)を受けることが大事です。痔などによるものだと自己判断で検査をしないことが大腸がんの発見を遅らせてしまう原因となります。精密検査は、大腸内視鏡検査を行うことが基本となりますが、最近では、カプセル内視鏡検査や、大腸に空気を入れて撮影するCTコロノグラフィーなどの診断率も向上しています。

大腸がんの治療

早期がんで見つければ、多くは、大腸内視鏡を用いて、腫瘍を切除することが可能です。近年の技術の進歩により、ややサイズが大きくても深さが浅ければ、内視鏡の粘膜下剥離術(ESD)で切除できる腫瘍が増えています。ただ、早期がんの一部や進行がんでは、外科的手術が必要となります。

当院では、従来の腹腔鏡下手術に加え、2018年からロボット支援下手術を導入しています(図①②)。ロボット支援下手術は、高度な技術を要する手術ではありますが、がんの根治性だけでなく、最大限機能温存を追求できる手術が可能となります。

コロナ禍にあっても、がんの早期発見のため、大腸がん検診の受診をおすすめします。詳しい治療方法などについては、下部消化器外科(大腸がん)専門医までご相談ください。当院の場合は、村田幸平、畑泰司、平木将之、池嶋遼、柳澤公紀が担当いたします。

図① 当院でのロボット支援下手術の様子



図② 大腸がん手術数と手術方法の割合



関西ろうさい病院の理念

●● 良質な医療を働く人々に、地域の人々に、そして世界の人々のために ●●

病院運営の基本方針

- ・私たちは、働く人々の健康確保のための医療活動、即ち「勤労者医療」中核的役割を担ってこれを推進します。
- ・私たちは、高度急性期医療機関として良質で安全・高度な医療の提供を行うとともに、地域の諸機関と連携して地域医療の充実を図り「地域に生き、社会に応える病院」としての発展を目指します。
- ・私たちは、患者さんの権利を尊重し、医療の質の向上ならびに患者サービスの充実に関心、「信頼され、親しまれる病院」作りを心がけます。
- ・私たちは、「開かれた皆様の病院」として、ボランティアや有志の方々の病院運営への参加・協力を歓迎します。
- ・私たちは、病院使命の効果的な実現のために「働き甲斐のある職場」作りを行い、運営の効率化と経営の合理化を推進します。

イメージキャラクター
がんくろっこ

ガンマナイフ治療と適応疾患

脳神経外科 阿知波 孝宗

■ ガンマナイフとは？

ガンマナイフ(図1)は脳神経外科分野の疾患で用いられる放射線治療装置の一種で、皮膚や骨に傷をつけることなく頭蓋内・脳の病変を低侵襲的に治療することができます。2023年現在日本国内に50台、兵庫県に3台が稼働中です(日本ガンマナイフ学会HP)。ガンマ線という放射線を用い、ナイフのような切れ味の良い高精度な治療効果が期待できることが名前の由来です。円環状に配置された放射線線源から約200本のビーム状の放射線が病変へ向けて集中的に照射されることで、病変では高い効果を得られる反面、周囲の脳や組織への被曝は最小限に抑えることができます。(図2)。治療機器や治療計画ソフトウェアの進歩により治療時間は短く、治療効率は向上しており、適応疾患のほとんどの治療は1日で終わることができます。



図1) ガンマナイフ

■ 主な適応疾患

ガンマナイフ治療の主な適応疾患については以下のようなものがあります。

① 転移性脳腫瘍

転移性脳腫瘍はがんが原発巣(がんが最初に発生した部位)から脳に転移したものであり様々な大きさや個数で発見され、病状が進行すると麻痺や感覚障害などの神経症状を呈します。

② 聴神経腫瘍

聴神経鞘腫とも呼ばれ、聴神経(内耳と脳を結ぶ神経)に生じる良性の腫瘍で、聴覚障害やめまいや平衡感覚の障害の症状で気付かれることが多いです。

③ 髄膜腫

髄膜腫は、脳を包んでいる髄膜と呼ばれる膜に発生する腫瘍です。基本的には良性の腫瘍で、緩徐に増大し脳を圧迫することにより神経症状が生じます。

④ 下垂体腺腫

下垂体と呼ばれる脳内の小さな腺に発生する腫瘍です。腫瘍の圧迫による視力障害や分泌されるホルモンの異常によって様々な症状を引き起こすことがあります。

⑤ 三叉神経痛

顔の感覚を支配する三叉神経の異常により、顔に痛みが生じる病気です。血管の圧迫やウイルス感染など様々な原因で生じます。

⑥ 動静脈奇形

脳の動脈と静脈が異常な血管で直接つながっている先天性の血管異常を脳動静脈奇形といいます。血管壁構造が弱いため出血する危険があり、脳内出血あるいは、くも膜下出血を起こすことがあります。

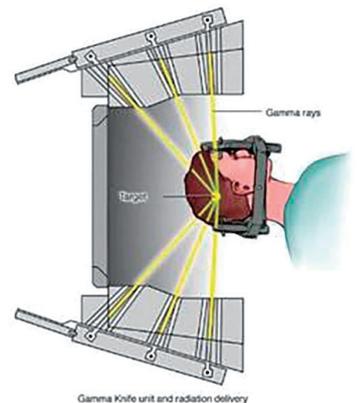


図2) ガンマナイフによる放射線照射

どの適応疾患であっても患者さんひとりひとり異なった病状が考えられ、手術や薬物療法、経過観察といった様々な選択肢も含めて適切な治療法を選んでいくことが重要です。詳細は脳神経外科専門医までお尋ねください。